

全国中国語教育協議会

ニュースレター

第6号

1998年5月28日発行

第1回理事会を開き、新年度がスタート

夏季セミナーは「試験」をテーマに

中国語教育協議会の発足後初の理事会が3月末に開催され、①会則を補うための内規の制定など、運営ルールの検討、②研修会・交流会・全国大会の開催と、会報・研究論集の発行など、活動方針・事業計画策定、③財政的基盤の確立について意見交換、④協議会の将来像に関する意見交換などが議題となりました。昨秋の正式発足後も事務局の非力から活動が限定されていましたが、第1回理事会開催を機に積極的な展開のための基礎固めをはかろうとするものです。議事録の概要は本号P. 3に掲載しました。理事会当日に急用で欠席となった方々もあって、全役員24名のうち11名の出席となったため、重要案件については理事全員に詳しい議事録を送付の上、あらためて意見を徴することとしました。これによる決定事項は9月に発行予定の次号ニュースレターに掲載します。

理事会の開催を待たずに計画された98年度第1期セミナーは、5月末までに発音教育講座1回と、文法教育講座全4回のうち前半2回が実施されました。PR不足と新学年のためか、参加者は音声が16名、文法が第1回、第2回とも各18名でした。6月以降の文法講座は25名の申し込みがあります。土曜午後の月例セミナーは今後も続けますが、参加者20名以上を予定して経費を積算していますので、前号ニュースレターでもお願いしたように、会員各位の積極的な参加と会員外へのPRを求める必要があります。会員外の方々には、あわせて入会の勧誘もしていただきたいと思います。

昨夏につづき第2回教員研修夏季セミナーを7月に開催しますが、第1回理事会の席上で要望の強かった「試験」をテーマにします。詳細は本号P. 4をご参照ください。(輿水優)

新年度会費納入のお願い

本会の経費は年度会費2000円と有志の寄付金によっています。前年度は納入率が92%と高く、会員各位のご協力に感謝しております。

今年度も4月の号外発行時に振替用紙をお送りし、早速に多数の方々から振り込んでいただきました。まだお振り込みのすんでいない会員はぜひ早めに納入をお願いいたします。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中国文学研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

(会費・寄付金振込にご利用下さい)

なお、お問い合わせ・ご連絡等は、お手数でも郵便でお願いいたします。

世界華語文教学研討会 (台北)



前号につき国内外の中国語教育関係学会を紹介する。今回は、台湾の世界華文教育協進会による国際シンポジウムを古川裕氏(大阪外国語大学)にレポートしていただく

先に本ニューズレター第5号で、北京の世界漢語教学学会とそのシンポジウム(国際漢語教学討論会)についてのレポートが掲載されている。そこに紹介されていると

おり、中国北京のこの学会は台湾台北の世界華文教育学会主催のシンポジウム(世界華語文教学研討会)を後追する形で設立されたものであった。両学会設立をめぐる事の実情や背景事情について、私はこの設立順序以上の情報を持つものではない。ともかく現時点での事実として、対外中国語教育を研究対象とする国際学会が中国と台湾の両地において並立存在しているというわけである。

私は1996年の夏(北京)と1997年の冬(台北)に両シンポジウムに参加し論文報告する機会を得た。今回は事務局の求めに応じて、台北のシンポジウムで見聞したことがらを中心に紹介させていただく。

さて、1997年もういよいよおしまった12月27日から30日にかけての四日間、台北市内にある剣潭海外青年活動中心を会場として「第五届世界華語文教学研討会」が開催された。主催単位は「世界華文教育協進会 World Chinese Language Association」(中華民國台北市羅斯福路三段77号8楼、TEL:886-2-3620146、FAX:886-2-3921431、Email:ufill160@ms3.hinet.net)。主催者の発表では三百人余りの参加者があり、約二百篇の論文が発表された盛会であった。

海外からの参加者としてはアメリカ在住の台湾系華僑が圧倒的に多く、クリスマスから新年にかけての帰郷を兼ねた参会者が多いように見受けられた。また、北京のシンポジウムには何人か台湾からの参加者があったが、今回台北での会議にも大陸から十数人の参加者があった。その他に日本やアメリカに滞在中の大陸出身の研究者も数人参加しておられ、中台間の学术交流がようやく軌道に乗りつつあることを印象づけていた。なお、年末開催という日程上の問題もあってか、日本からの参加者は少なく、論文発表者はわずか7名に過ぎなかった。欧米と日本、韓国からの参加が少ないという点では北京会議で見られた国際性に及ばないと言わざるを得ない。

シンポジウムは(1)語文分析組(2)教学応用組(3)華文学校教学組の三グループに分かれて論文発表と討論が行われた。その内(2)教学応用組の発表が半数以上を占めていて、このシンポジウムが名実共に中国語教育のためのものであることを証明していた。また、会場には台湾の言語学界を代表する張孝裕、湯廷池、鄧守信、曹逢甫、黄宣範氏らの姿もあって、水準の低い報告に対しては厳しいコメントが加えられていた。

報告論文は電話帳ほどの厚さの論文集四冊に印刷されていて参会者全員に配られる。これが帰途の大荷物になるのにはいささか辟易したが、事前準備の周到さや会議中の組織性はさすがに北京会議をはるかに上回るものであった。さらにシンポジウム終了後、希望者には一泊二日の観光旅行もアレンジされていて至れり尽くせりの感があった。

なお、次回のシンポジウムは2000年に開催予定との由である。詳細は上記主催単位にお問い合わせいただきたい。

全国中国語教育協議会第1回理事会報告

平成10年3月28日に日本大学文理学部で、全国中国語協議会第1回理事会が開催された。当日の議事録から報告と討論の概要を以下に記すこととする(文責編者)。

- 1 会務報告 奥水会長から、大会における理事の選出結果と、会長による代表理事の委嘱について報告(ニューズレター第4号に掲載済み)、会計監査委嘱・活動方針等ははまだ最終決定していないが、夏までの月例セミナーは発表済みであること、事務局の幹事として島田亜実氏(日大非常勤)に委任をした旨、説明があった。なお、理事会当日現在の会員数は199名(注:5月25日現在210名)、97年度会費納入はその内183名との報告があった。
- 2 役員選出方法 会則では「会長、理事は総会において選出する。選出方法は別に定める」としているので、選出に関する内規を定めなければならない。これについて、総会出席者の選挙によるのか、全会員による郵便投票によるのか論議し、その過程で役員の半数入れ替え制や、役員が大学関係者に偏らない方策等の意見が出た。役員選出の際、一部に会長指名制を導入する提案には賛成が多かったが、最終案の決定には至らなかった。
- 3 大会・総会の開催 会則では「隔年に総会を召集し」と定めているが、具体的に場所と時期の問題を含めて論議した。研究大会と会員総会を1日にまとめ、6月に近い5月に開催という方向に傾いたが、会場の選定方法をはじめ、なお検討が必要である。理事会に関する規定がないが、年に1回は事務局のある所で3~4月に、という案が出た。
- 4 今後の活動方針と事業計画 当面の主たる活動として教員研修を実施し、すでに実績のある夏季セミナーのほか、アンケートで希望者の多かった土曜日の月例セミナーも軌道に乗せる。それらの成果を集大成すること、会員の研究論集を刊行すること等が出れば、その実績を示して協議会の存在意義も認められよう。授業参観の実現には強い要望があった。また、「試験問題」に関する討論、教科書の基準の問題、将来的には体系的教科書の編さん、といった意見が強く聞かれた。授業の工夫集や論集の原稿募集にとりかかり、現行の手作りニューズレターのほかに刊行をはかることとした。
- 5 協議会の財政的基盤 会費納入状況は良好であり、有志からの寄付金も加えれば、年間収入は40万円。理事会当日までの会計報告は下記の通りであるが、準備会の時期が含まれることもあって、今回については会計監査が略されている。今後、会計監査や幹事の委嘱を経て、予算・決算も明示できるようになるが、現在のところ事務局費・会報発行費(郵送料)・事業費(セミナー等)におよそ12万円ずつ支出することになる。セミナーに赤字を出さないよう、経費の積算を検討し、積極的に参加者を勧誘する必要がある。(付記)その後、事務局で検討の結果、大会とセミナーは独立採算制をとることとした。

☆ 97年度会計報告(97年4月~98年3月27日現在、下記の収支による残高 ¥163,787)

収入	会費 @ 2,000 × 186 = 372,000	(内1名は二重払い、2名は98年度分)
	寄付金 36,000	(大会時の寄付金は別会計、第4号参照)
	合計 408,000	
支出	切手・葉書 140,300	
	事務用品(封筒等) 34,021	
	事務費(会議費・バイト等) 64,600	
	夏季セミナー赤字補填 5,292	
	合計 244,213	

◆◆活動ニュース◆◆ ご案内ずみの中国大使館主催の懇親会(漢語教師联谊会)は40人を超える会員の出席を得て開かれ、中国歌曲のカラオケもあり盛会だった。

第2回中国語教員夏季セミナー開催案内

中国語教育協議会では準備会の段階から、教員研修を最も重要な活動として取り組んできたが、今後この事業を一層発展させるとともに、近い将来その成果を集大成して、教育方法と教育内容の質的向上を図りたいと考えている。

今年度はすでに月例セミナーを実施しているが、夏休みには昨年と同様に夏季セミナーを開催することになった。以下にその要項を記し、各位の積極的な参加を呼びかけたい。

なお、今年度は集中1日セミナーで、メインテーマを「中国語の学力評価と試験問題」とする。近年、学習者の増加につれ、センターテスト・入学試験をはじめ、社会的にも各種の能力試験が行われるようになったが、作題や評価など必ずしも十分には検討がなされず、ビジネス先行の向きもある。この際、日常の教室におけるテストも含めて考察する。

日 時 平成10年7月30日(木) (日程は別表)

会 場 日本大学文理学部(東京都世田谷区桜上水3-25-40)

参加費 4500円(配布資料等の諸費用を含む、事前に郵便振替で納入)

参加資格 中国語教育に従事する者、中国語教育を志す者(なるべく教育実習経験者)。

申込方法 葉書に所属・氏名・年齢・教歴(年数)・連絡先を記入し、事務局へ送付する。
6月25日(木)到着分まで受け付け、定員超過の場合は代表理事で選考する。
その場合は協議会会員、教歴の浅い者を優先する。なお、申し出があれば所属長あての依頼状を送る。(事務局への郵便物宛ては本号p.1を参照)

定 員 35名(会場の都合で増員はできません)。参加の可否は6月末までに通知し、その後、指定の方法で参加費を事前納入した者を夏季セミナー参加者として登録する。なお、事務局では宿泊の斡旋および当日の昼食の用意はしない。

講 師 國學院大学教授 渡邊晴夫氏

委嘱テーマ：外国語の評価とテスト——英語と中国語の場合

明治大学教授 武信 彰氏

委嘱テーマ：中国語試験問題の作り方——良問・悪問

[別表] 予定時間割	9:10	9:30	9:35~12:25	13:30~16:20	16:25~17:00
7月30日(木)	受付	開講式	渡邊講師	武信講師	ミニ懇談会

予 告 98年度第2期セミナーのお知らせ

今年度秋以降の月例セミナーについては下記の日程で実施する予定ですが、正式のご案内を9月発行の次号ニューズレターに掲載し、その上で申し込み受け付けをいたします。

10月17日(土) 中国語発音教育経験談〔仮題〕 講師:孫玄齡氏(東京外国語大学)

11月14日(土) 常用語など、語彙に関する問題 (講師未定)

12月12日(土) 基本文法に関する問題 (講師未定)